科目名	建築設計製図Ⅱ				
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING Ⅱ				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	中園　理恵子
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	建設会社にて建築設計に従事
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	【鉄筋コンクリート・鉄骨造の製図】 配置図の描き方　平面図の描き方　断面図・立面図の描き方 矩計図の描き方　1階床伏図・2階床伏図・1階小屋伏図の描き方 【住宅のフリープラン】 各自で条件にあったフリープランを作成する				
授業形態	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○				製図道具の使い方を理解し、使用することが出来るようになる
○					木造建築の一般図の種類と表現方法･内容が説明できる。
	○				製図の基本に則して木造建築物の配置図及び平面図を作図することができる。
	○				製図の基本に則して木造建築物の断面図及び立面図を作図することができる。
	○				製図の基本に則して木造建築物の矩計図を作図することができる。

テキスト・教材 参考図書

超入門建築製図 （市ヶ谷出版社）

授業計画

回数		授業項目・内容	授業外学修指示
1	2	課題説明・エスキース	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
3	4	エスキース	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
5	6	設計製図	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
7	8	設計製図	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
9	10	設計製図・模型制作	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
11	12	設計製図・模型制作	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
13	14	設計製図・模型制作	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
15	16	課題説明・エスキース	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
17	18	エスキース	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
19	20	設計製図	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
21	22	設計製図	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
23	24	設計製図・模型制作	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
25	26	設計製図・模型制作	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
27	28	設計製図・模型制作	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
29	30	設計製図・模型制作・プレゼンテーション	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。

評価方法

(1)課題の提出　(2)課題の発表　以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
課題	○	◎				50%
発表・作品		◎				50%

履修上の注意

出席が授業回数の2/3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない

科目名	建築計画Ⅲ				
科目名(英)	Architectural planning　and designⅢ				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	森行　美枝
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	社会が変化する中、建築の担う役割は多様になっている。そのために過去、現在、未来、それぞれにどのような役割を建築が担ってきたか、あるいは担う可能性があるか、各自で思考を深める必要がある。例えば建築の歴史をふりかえり、現在の環境問題に建築がどのように貢献できるかを考察することが望ましい。 前期では、主に建築計画の基本となる住宅について学ぶ。また建築を設計するうえで基本となるスケール感覚を身につけ、人間が生活する空間を学ぶ。 以上の内容の概説に加え、個人またはグループに課題を出題し調査や発表・講評等も行う予定である。				
授業形態	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				建築計画とは何かを説明できる
	○				既存の建築計画を調査・研究している
	○				これからの社会情勢に応じた建築計画を模索する意志を有する

テキスト・教材 参考図書

初学者の建築講座　建築計画（改訂版）、カラー版図説　建築の歴史　西洋・日本・近代

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	ガイダンス4-1生活圏とコミュミティー施設	
2	4-2図書館　図書館の変遷	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
3	4-2図書館　公共図書館の役割	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
4	4-2図書館　地域図書館の計画、近代建築史	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
5	4-3美術館　美術館の計画・各室計画	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
6	4-3美術館　美術館の計画・各室計画の変遷	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
7	4-4コミュニテーセンター、公民館	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと　復習する。
8	4-5確認テスト	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
9	5-1高齢社会と建築計画　5-2病院　病院の誕生	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
10	5-2病院　病院の計画	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
11	5-2病院　各室の計画	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
12	5-3高齢者施設　居住施設・各室計画	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
13	5-3高齢者施設　居住施設・各室計画	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと　復習しておく。
14	5-3確認テスト	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと　復習しておく。
15	総括	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと　期末試験に向けて復習をする

評価方法

講義中の課題講評プレゼンテーション、レポート提出、期末試験の結果等により総合的に評価する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	◎				80%
小テスト	◎	◎				10%
課題・プレゼンテーション	○	◎				10%

履修上の注意

出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	建築計画Ⅳ				
科目名(英)	Architectural Planning Ⅳ				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	赤星　亜美
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	オーダー家具制作会社でインテリアコーディネーターとして勤務
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	社会的状況により建築計画も大きく変わってきます。あらゆる施設の条件的な成り立ちを理解することは、新しい形状を見つけ出すためには重要な資料となる。この授業では、施設計画の裏付けを理解し、自ら設計提案できる力を身につけることを目的とする。				
授業形態	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				既存の建築計画の調査、研究が出来ている
○	○				事務所ビルの理解ができ計画が出来る
○	○				音楽ホール、劇場の構造上の特徴を把握し、建築計画を立てられる
○	○				百貨店、スーパーマーケットの構造上の特徴を把握し、建築計画を立てられる
○	○				宿泊施設、駐車場の構造上の特徴を把握し、建築計画を立てられる

テキスト・教材 参考図書

テキスト:初学者の建築講座　建築計画(改訂版)　参考図書:カラー版図説　建築の歴史　西洋・日本・近代、コンパクト建築設計資料集成、ホテル・旅館　市ヶ谷出版、「新建築」等の建築雑誌　その他

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	ガイダンス 6-1規模計画と経済効率	予習・復習することを心がける。
2	6-2事務所ビル　事務所ビルの変遷	予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
3	6-2事務所ビル　事務所ビルの計画	予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
4	6-2事務所ビル　各室計画	予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
5	6-3劇場・音楽ホールの変遷	前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。
6	6-3劇場・音楽ホールの計画	予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
7	6-3劇場・音楽ホール　客席・舞台の計画	予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
8	6-4百貨店・スーパーマーケットの変遷	前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。
9	6-4百貨店・スーパーマーケット　大規模小売店舗の計画	予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
10	6-4百貨店・スーパーマーケット　売り場の計画・駐車場	予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
11	6-5　宿泊施設 定義・種類・分類・機能・基本条件	前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。
12	6-5　宿泊施設 構成要素・部門・所要室・規模	予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
13	6-5　宿泊施設 ゾーニング・動線計画宿泊施設	予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
14	6-5　宿泊施設 6-6　駐車場	予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
15	総括Ⅰ	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと

(1)授業の中で小テストを5回実施する。 (2)レポートを数回実施する。 (3)定期試験(筆記)を実施する。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合

評価方法	定期試験	○	○				80%
	小テスト	○	○				10%
	宿題・レポート	○	○				10%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	建築設備				
科目名(英)	Building Facilities				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	峯元　幹雄
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	総合メーカー建築技術担当。建材・都市開発・住宅部門に従事
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	建築に関する基礎的で包括的な専門知識として、また、建築環境・設備分野での技術者として 必要な設備計画に関する基礎知識を修得する。				
授業形態	講義:　○	演習:　－	実習:　－	実技:　－	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				建築設備の役割・種類・構成を説明できる
○	○				空気調和方式の種類・特徴を説明できる
○	○				空気線図を読み解き、空調負荷について説明することができる
○	○				建築計画における省エネ手法を導き出せる
○	○				昇降機設備の種類と仕組みを理解する。

テキスト・教材 参考図書

初学の建築講座　建築設備　第3版

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	建築設備概要（1・1建築設備とは）	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
2	給排水衛生設備　2・1給排水衛生設備とは	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
3	2・2給水設備	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
4	2・3給湯設備	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
5	2・5排水・通気設備	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
6	2・6排水処理設備	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
7	2・7衛生器具設備　2・8消火設備	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
8	空気調和設備　3・1空気調和設備とは　3・2空気調和と室内環境	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
9	3・3空気の状態を知る　3・4空調負荷の考え方	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
10	3・5空気調和方式の種類　3・6熱源・熱搬送設備と機器部材	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
11	3・7換気・排煙設備	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
12	電気設備　4・1電気設備とは	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
13	4・2受変電・幹線設備	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
14	4・5照明・コンセント設備　4・6情報・通信設備搬送設備 5・1・1エレベーター	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
15	まとめ	本科目における学習内容を復習しておくこと

評価方法

定期試験規定にもとづき、試験（筆記）を実施する。小テスト及び宿題レポートを数回実施する。
成績評価基準は、S（90点以上）・A（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（59点以下）とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	◎	○				80%
小テスト	○	◎				10%
宿題・レポート	○	○				10%

履修上の注意

出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	建築構造力学Ⅱ				
科目名(英)	Building Structural Mechanics Ⅱ				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	古賀　俊光
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	設計事務所にて 建築デザインに従事
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	形や空間を構成するには建築構造の知識が必要となります。また、天災による建物への被害が起きており、多くの人が建物の構造強度についての関心も強くなっている。建物の機能を保てる構造を作るためにも建築構造力学の知識は重要となります。この授業では、建築構造力学(応力、トラス、座屈、たわみ、不静定構造など)の考え方を身につけます。				
授業形態	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				応力を算出することができる。
○	○				3ヒンジラーメンの反力・応力を計算することができる。
○	○				トラスの軸力を算出することが出来る。
○	○				梁のたわみ、材の座屈が計算できる。
○	○				不静定構造物について説明することができる。

テキスト・教材 参考図書

学芸出版社　図説　やさしい構造力学

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	持ち出し梁の応力	
2	片持ち梁の応力	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
3	片持ち梁系ラーメンの応力(1)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
4	片持ち梁系ラーメンの応力(2)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
5	単純ラーメンの応力(1)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
6	単純ラーメンの応力(2)	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと
7	3ヒンジラーメンの応力	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
8	トラス構造の特徴と静定トラスの解法について	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
9	静定トラス　切断法(1)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
10	静定トラス　切断法(2)	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと
11	静定トラス　節点法・算式	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
12	静定トラス　節点法・図式	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
13	梁のたわみ	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
14	座屈	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと
15	不静定構造について	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること　(2)授業の中で小テストを3回実施する。
(3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	◎				40%
小テスト	◎	◎				40%
宿題・レポート	○	◎				20%

履修上の注意

出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	建築一般構造Ⅱ				
科目名(英)	ntroduction of Building Construction Ⅱ				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	古賀　俊光
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	設計事務所にて 建築デザインに従事
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	建築構造は、建物の成り立ちであり、建築物の各部と全体が、どのような材料を用いて、どのように形造られているかを学ぶ。				
授業形態	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				RC構造の特徴について説明することが出来る。
○	○				RC構造の材料(コンクリート・鉄筋)について説明することが出来る。
	○				断面算定をすることが出来る。
○	○				鉄骨構造の概要について説明することが出来る。
○	○				トラス構造について説明することが出来る。

テキスト・教材 参考図書

初学者の建築講座　建築構造　　市ヶ谷出版

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	鉄筋コンクリート構造(以下RC構造)とは	
2	RC構造の特徴	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
3	RC構造の材料(コンクリート・鉄筋)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
4	梁・柱部材	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
5	構造におけるひび割れ、スラブ・耐震壁	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
6	断面算定	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
7	その他のコンクリート系構造(壁式構造)(SRC構造)(プレストレストコンクリート構造)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
8	各部構造(陸屋根、床、階段、壁、天井、開口部)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
9	鉄骨構造の概要	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
10	鋼材の種類と性質	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと
11	各部材の設計	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
12	接合(高力ボルト接合)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
13	接合(溶接接合)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
14	柱脚、トラス構造	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
15	構造Ⅱの総まとめ	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること　(2)授業の中で小テストを3回実施する。
(3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	◎				40%
小テスト	◎	◎				40%
宿題・レポート	○	◎				20%

履修上の注意

出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	建築施工Ⅱ				
科目名(英)	Building Construction Ⅱ				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	集路　正巳
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	総合建設会社にて、主に施工管理職として勤務
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	前期で学んだ施工Ⅰに続き、鉄骨工事以降の建築工事を構成する各工種について、その内容と全体の施工計画について概要を学ぶ。 また、建物完成後の業務に関しても、概要を学習する。				
授業形態	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※ 主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目　標
○	○				建築生産の仕組みを理解し、説明できる
○	○				請負契約から工事計画、工事管理まで理解し、説明出来る
○	○				建築工事を構成する様々な工種を理解し、概要を説明できる(仮設・土・地業・鉄筋・型枠・コンクリート)

テキスト・教材 参考図書

初学者の建築講座　建築施工(第三版)　市ヶ谷出版社

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	鉄骨工事(概要、工場製作①)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
2	鉄骨工事(工場製作②)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
3	鉄骨工事(工場製作③)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
4	鉄骨工事(工場製作④、現場施工①)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
5	鉄骨工事(現場施工②)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
6	鉄骨工事(現場施工③)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
7	鉄骨工事のまとめ、確認テスト①	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと
8	屋根工事、防水・シーリング工事	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
9	仕上工事の考え方、左官工事、タイル工事	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
10	石工事、建具・ガラス工事、金属工事	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
11	内装工事	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
12	塗装・吹付工事、ユニット工事、断熱工事、外壁工事	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
13	設備工事(電気、給排水・衛生、空調)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
14	設備工事(昇降機設備工事)、完成時・完成後の管理	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
15	確認テスト②、期末試験対策	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと

評価方法

(1)授業の中で小テストを2回実施する。 (2)定期試験(筆記)を実施する。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	○				70%
小テスト	○	○				30%

履修上の注意

出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	建築法規　Ⅱ				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	徳田　美穂子
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	設計事務所にて、公共施設、共同住宅等の意匠設計に従事
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	建築物の設計、施工に必要不可欠である建築基準法と関係法令について条文の主旨、内容の理解を図る				
授業形態	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				建築に関する用語の定義を始めとする基本事項を説明することができる。
○	○				建築法規の成り立ちを学び、順守すべき内容を説明することができる。
○	○				建築法規に規定する事項を学び、順守すべき事項を説明することができる。
○	○				実際の設計等を想定して、各自の判断で法令順守のプランニングができる。

テキスト・教材 参考図書

・建築関係法令集　法令編

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	階段、廊下の幅	事前連絡の該当範囲を事前に一読しておくこと。
2	階段、廊下の幅②	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
3	確認申請などの手続き1	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
4	確認申請などの手続き2	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
5	構造と規模についての規定	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
6	用途地域1	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
7	用途地域2	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
8	道路概要	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
9	敷地と道路の関係	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
10	建ペイ率1	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
11	建ペイ率2	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
12	容積率1	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
13	容積率2(緩和)	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
14	容積率3(緩和)	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
15	確認問題　(筆記試験)	定期試験に向けた学習を徹底しておくこと。

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する
(2)授業の中で小テストを実施する
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	◎				80%
小テスト	○	◎				20%

履修上の注意

出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	建築法規　Ⅲ				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	徳田　美穂子
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	設計事務所にて公共施設、共同住宅等の意匠設計に従事
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	建築物の設計、施工に必要不可欠である建築基準法と関係法令について条文の主旨、内容の理解を図る				
授業形態	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				建築法規のそれぞれの条文を理解し、説明することができる。
○	○				建築法規の成り立ちを学び、順守すべき内容を説明することができる。
○	○				建築法規の規定事項を学び、関連法令と合わせた順守すべき事項を説明することができる。
○	○				実際の設計等を想定して、各自の判断で法令順守のプランニングができる。

テキスト・教材 参考図書

・総合資格学院編　建築関係法令集　法令編

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	高さ制限1	事前連絡の該当範囲を事前に一読しておくこと。
2	高さ制限2	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
3	高さ制限3、日影	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
4	内装制限1	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
5	内装制限2	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
6	防火区画等①	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
7	防火区画等②	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
8	避難施設1(避難施設が必要な建築物)	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
9	避難施設2(避難階段と特別避難階段)	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
10	避難施設3	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
11	その他の法令1(建築士法)	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
12	その他の法令2(建築士法、建設業法)	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
13	その他の法令3(バリアフリー法、耐震改修法)	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
14	その他の法令4(品確法、長期優良住宅)	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
15	その他の法令5(消防法)	定期試験に向けた学習を徹底しておくこと。

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する
(2)授業の中で小テストを実施する
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	◎				80%
小テスト	○	◎				20%

履修上の注意

出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	インテリアコーディネーター資格対策Ⅱ				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	赤星 亜美
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	オーダー家具制作会社でインテリアコーディネーターとして勤務
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	インテリアコーディネーターの資格試験対策。前期に学習した知識の定着を目的に模擬試験、テストを毎回実施する。出題傾向、要点を把握し資格試験合格を目指す。				
授業形態	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				インテリアの歴史について説明することができる
○	○				家具の特徴を理解し説明できる。
○	○				消費者関連法規の重要事項・留意事項を把握しており、説明できる
○	○				インテリアエレメントの特徴を説明することができる
○	○				インテリアコーディネーター一次試験に合格基準の点数をとることができる

テキスト・教材 参考図書

インテリアコーディネーター合格教本（上・下）　インテリアコーディネーター過去問題徹底研究（上・下）
インテリアコーディネーターテーマ別用語辞典

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	インテリア販売・日本の歴史	教科書（合格教本上巻）の該当範囲（1章）を事前に読んでおくこと
2	日本の歴史	教科書（合格教本上巻）の該当範囲（2章1　⑨まで）を事前に読んでおくこと
3	西洋の歴史	教科書（合格教本上巻）の該当範囲（2章1　⑭まで）を事前に読んでおくこと
4	西洋の歴史	教科書（合格教本上巻）の該当範囲（2章2　⑩まで）を事前に読んでおくこと
5	インテリア計画	教科書（合格教本上巻）の該当範囲（2章2　⑪～3章1・2まで）を事前に読んでおくこと
6	インテリア計画	教科書（合格教本上巻）の該当範囲（3章3　・4）を事前に読んでおくこと
7	色彩と造形・家具	教科書（合格教本上巻）の該当範囲（4章）を事前に読んでおくこと
8	家具	教科書（合格教本上巻）の該当範囲（5章1・2）を事前に読んでおくこと
9	ウィンドウトリートメント・各種エレメント	教科書（合格教本上巻）の該当範囲（5章3・4）を事前に読んでおくこと
10	構造・構法	教科書（合格教本上巻）の該当範囲（6章）を事前に読んでおくこと
11	構造・構法	教科書（合格教本上巻）の該当範囲（7章）を事前に読んでおくこと
12	材料	教科書（合格教本下巻）の該当範囲（12章1　2）を事前に読んでおくこと
13	環境工学・住宅設備	教科書（合格教本下巻）の該当範囲（12章3）を事前に読んでおくこと
14	照明・表現技法	教科書（合格教本下巻）の該当範囲（14章）を事前に読んでおくこと
15	関連法規	教科書（合格教本下巻）の該当範囲（15章）を事前に読んでおくこと

評価方法

(1)授業の中で各章の終わりに小テストを実施する。 (2)レポートを数回実施する。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S（90点以上）・A（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（59点以下）とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
模擬試験	○	○				30%
確認テスト	○	○				35%
宿題	○	○				35%

履修上の注意

出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	CAD演習Ⅱ				
科目名(英)	cad exerciseⅡ				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	吉田　麻美
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	CAD操作の習熟(正確さとスピードアップ)を目指す。 RC造の平面図、断面図、立面図等作図方法習得。				
授業形態	講義:	演習:　○	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○			○	コマンドを効果的に活用して効率的に図面のトレースを行うことが出来る。
	○			○	用紙サイズ、縮尺、寸法など製図のルールを理解して作図することが出来る。
	○			○	RC造の書き方を理解し平面図、断面図、立面図等の作図が出来る。
	○			○	自ら用途に応じてJwCADの各種設定や変更を行うことが出来る。
	○			○	レイヤの設定、かき分けが出来る。

テキスト・教材 参考図書

初めての建築CAD:学芸出版社

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	作図課題(RC事務所)①図枠作成・レイヤ設定	
2	作図課題(RC事務所)②1階平面図作成	前回の復習を行うこと
3	作図課題(RC事務所)③2階平面図作成	前回の復習を行うこと
4	作図課題(RC事務所)④A-A断面図作成	前回の復習を行うこと
5	作図課題(RC事務所)⑤A-A断面図作成	前回の復習を行うこと
6	作図課題(RC事務所)⑥B-B断面図作成	前回の復習を行うこと
7	作図課題(RC事務所)⑦B-B断面図作成	前回の復習を行うこと
8	作図課題(RC事務所)⑧印刷設定　課題提出	前回の復習を行うこと
9	作図課題(RC事務所)⑨レイヤ設定・南立面図作成	前回の復習を行うこと
10	作図課題(RC事務所)⑩南立面図作成	前回の復習を行うこと
11	作図課題(RC事務所)⑪西立面図作成	前回の復習を行うこと
12	作図課題(RC事務所)⑫西立面図作成	前回の復習を行うこと
13	作図課題(RC事務所)⑬配置図作成	前回の復習を行うこと
14	作図課題(RC事務所)⑭建築概要作成	前回の復習を行うこと
15	作図課題(RC事務所)⑮印刷設定・課題提出	前回の復習を行うこと

評価方法

(1)6つの課題を期限内に提出すること。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
発表・作品		◎			○	100%

履修上の注意

出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	CG演習 Ⅰ				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	八尋　誠
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	Photoshopの基本操作と、業界における重点を学ぶ それら基礎知識の浸透が目的				
授業形態	講義:　△	演習:　○	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				Photoshopの機能を説明することができる
○	○				Photoshopによる画像補正　修正処理ができる
○	○				画像の切り抜くことができる
○	○				Illustratorとの連携を意識した処理ができる

テキスト・教材 参考図書

なし

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	導入授業　Photoshopで合成してみる	Photoshopをインストールしておくこと
2	Photoshop　建築物の写真を切り抜いて空と樹木を合成	Photoshopのツールを予習しておくこと
3	Illustrator　ベジェ曲線　ツール編	Illustratorをインストールしておくこと
4	Illustrator　ベジェ曲線　実践編	ペンツールの使い方を復習しておくこと
5	Illustrator　写真をペーンツールで切り抜きレイアウト	複合パス・トリミングなどの使い方を復習しておくこと
6	Photoshop　建築物の写真をペンツールで切り抜き合成	ツールの使い方を復習しておくこと
7	Illustrator　基本図形　パスファインダ	Illustratorの使い方を復習しておくこと
8	Illustrator　基本図形でインテリアのイラストを描く　スウォッチ・カラーの使い方	ツールの使い方を復習しておくこと
9	Illustrator　基本図形でインテリアのイラストを描く　パターン・グラデーションの使い方	ツールの使い方を復習しておくこと
10	Illustrator　いろんな線を描く	ツールの使い方を復習しておくこと
11	Illustrator　間取り図を描く	ツールの使い方を復習しておくこと
12	Photoshop　インテリアの線画をペイント　ブラシツール等	Photoshopの使い方を復習しておくこと
13	Photoshop　インテリアの線画をペイント　焼き込みツール等	ツールの使い方を復習しておくこと
14	Illustrator　CAD平面図をペイント　DXFファイルの開き方	ツールの使い方を復習しておくこと
15	Illustrator　CAD平面図をペイント　フィルタ関連	ツールの使い方を復習しておくこと

評価方法

練習問題を小テストととして評価　3種実施、その提出・内容により評価

成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
小テスト	◎	○				100%

履修上の注意

出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	デザイン演習				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	東　徹太郎
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	自分の発想・考え方を形に表現する力を身につける。 鉛筆デッサンを中心にものの正しい見方を学ぶ パースの基本を学ぶ。(後期の設計製図・インテリアコーディネーター2次対策) 就職面接用のポートフォリオの素材となる作品を制作する。				
授業形態	講義:　△	演習:　○	実習:　－	実技:　－	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				自分の発想・考え方を形に表現できる。
	○				鉛筆デッサンで正しくものの形を表現できる。
	○				インテリアコーディネーター2次試験合格レベルのパース表現が出来る。
	○				ポートフォリオの作品が制作できる。

テキスト・教材 参考図書

・プレゼンテーション試験に必要なインテリア製図　児島　敬子　産業能率大学出版部
・新しいインテリアデザインの実技　　村口峡子　市ヶ谷出版社
・やさしく学ぶインテリア製図　町田ひろ子インテリアコーディネーターアカデミー　エクスナレッジ

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	オリエンテーション　課題説明　パースの定義　スケッチ	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
2	鉛筆デッサン①　様々な立方体のデッサン	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
3	鉛筆デッサン②　雑貨、家具、植物等デッサン	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
4	鉛筆デッサン③　インテリア、建物デッサン	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
5	投影図①　アクソメトリック図の描き方①下描き	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
6	投影図②　アクソメトリック図の描き方②仕上	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
7	投影図③　アイソメトリック図の描き方①　下描き	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
8	投影図④　アイソメトリック図の描き方②仕上	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
9	パース(透視図)①　ベッドルーム　下描き	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
10	パース(透視図)②　ベッドルーム　インキング	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
11	パース(透視図)③　ベッドルーム　インキング・着彩	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
12	パース(透視図)④　リビングルーム　下描き	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
13	パース(透視図)⑤　リビングルーム　インキング	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
14	パース(透視図)⑥　リビングルーム　インキング・着彩	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
15	課題の最終仕上・提出及び合評会	最後の授業まで課題を終わらせること。

評価方法

(1)課題の提出　(2)課題の発表　以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
課題提出	○	◎				50%
発表	○	◎				50%

履修上の注意

出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	GCBⅡ				
科目名(英)	Global　Citizen　Basic　Ⅱ				
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	各クラス担任
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	GCBⅠで学んだ「感謝の気持ちと他社への思いやり」を踏まえ、GCBⅡではさらに「社会とのつながりの中で自分自身の生きる姿勢＝志」について学ぶことを確認します。「志とは何か」を学ぶ第一歩として、「夢、ビジョン、志の違いについて」および「志を立てるために大切な4つのこと」を学びます。				
授業形態	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○				考えることの大切さを知る
○	○				自分の言葉で伝える大切さを知る
	○				目標の大切さ、志の大切さを知る。
	○				行動する大切さに気づく。

テキスト・教材 参考図書：グローパルシティズンベーシックⅡ　テキスト

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	グローバルシティズンと志 ～志とは何か。どうすれば志を立てることができるのか～	
2	なぜ志を立てることが大切なのか　～世界の中の日本・日本の中の私①～	
3	自己を知る　～私の過去・現在・未来～	
4	伝える力を学ぶ（1） ～「個」としての伝える力を高める（自分の言葉で自分の思いと考えを伝える～	
5	伝える力を学ぶ（2）「グループコミュケーション」 ～勇気と思いやりをもって言葉のキャッチボールを～	
6	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる （言葉の力とプロ意識に学ぶ）　～プロとは～	
7	自己の大切さと責任を自覚する　～世界の中の日本、日本の中の私②～	
8	GCBⅡを受講して、私が感じたこと・気づいたこと・学んだこと	

評価方法

（1）受講態度・意欲　（2）課題の提出　以上の内容を総合的に判断し　R評価（可、不可）で判断する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
受講態度・意欲	○	○				30%
課題の提出	○	○				70%

履修上の注意：出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	就職実務Ⅱ				
科目名(英)	Career Study Ⅱ				
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	各クラス担任
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年				
授業概要	就職活動に必要な基礎知識を備えた人材の育成 具体的には、就職活動における基礎的な振る舞いを身に着け、習慣化する				
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○					就職活動に必要な自己分析を行うことができる
○					基本的な面接対応ができる
	○				メール対応など、就職活動に必要なコミュニケーション知識がある
○	○				企業研究の方法を知っている
	○				学校求人を利用するための条件を知っている

テキスト・教材 参考図書

学校支給のGCBテキスト　就職活動ガイドブック

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	企業講話　実践的な課題の提案　＊メールアドレスの確認と管理	
2	就職活動に関する心構え　ものづくり系の仕事とは	
3	就職活動に関する心構え　必要なスキル	
4	就職活動に関する心構え　課題作品の模擬プレゼンテーション	
5	・履歴書の書き方　・メールアドレスの管理	
6	・履歴書の書き方　随時添削　・メールアドレスの管理	
7	・履歴書提出と添削	
8	就職活動スケジュールを確認　及び　順次個人面談と企業対策	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法

(1)受講態度・意欲　(2)課題の提出　以上の内容を総合的に判断し　R評価(可、不可)で判断する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
受講態度・意欲	○	○				30%
課題の提出	○	○				70%

履修上の注意

出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	設計競技ゼミⅠ				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	古賀　俊光
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	設計事務所にて建築デザインに従事
対象学科・学年	建築工学科　・　建築CAD科　・　インテリアデザイン科　・　建築学科(昼)　1年				
授業概要	設計競技に挑戦する。課題に対して、分析、問題提起、解決への道筋をたて、建築パースや模型・各種図面で表現をし、プレゼンボードとしてまとめて設計意図を表現することができる能力を身につける。				
授業形態	講義:	演習:	実習:　○	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○				課題を分析することができる
	○				問題に対して道筋をたてた設計回答をすることができる
	○				設計した内容についてプレゼンテーションが出来る。

テキスト・教材 参考図書

参考図書:各種建築雑誌

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	ガイダンス・課題説明	
2	課題分析・エスキース	遅れている分は時間外に実施
3	エスキース	遅れている分は時間外に実施
4	エスキース	遅れている分は時間外に実施
5	エスキース	遅れている分は時間外に実施
6	エスキース	遅れている分は時間外に実施
7	エスキース	遅れている分は時間外に実施
8	エスキース	遅れている分は時間外に実施
9	中間プレゼン用PP作成	遅れている分は時間外に実施
10	中間プレゼン用PP作成	遅れている分は時間外に実施
11	中間プレゼンテーション	遅れている分は時間外に実施
12	図面制作・模型作成	遅れている分は時間外に実施
13	図面制作・模型作成	遅れている分は時間外に実施
14	図面制作・模型作成	遅れている分は時間外に実施
15	図面制作・模型作成	遅れている分は時間外に実施
16	図面制作・模型作成	遅れている分は時間外に実施
17	図面制作・模型作成	遅れている分は時間外に実施
18	図面制作・模型作成	遅れている分は時間外に実施
19	図面制作・模型作成	遅れている分は時間外に実施
20	図面制作・模型作成	遅れている分は時間外に実施
21	図面制作・模型作成	遅れている分は時間外に実施
22	プレゼンボード・プレゼンPP作成	遅れている分は時間外に実施
23	プレゼンボード・プレゼンPP作成	遅れている分は時間外に実施
24	プレゼンボード・プレゼンPP作成	遅れている分は時間外に実施

	25	プレゼンテーション・講評会	遅れている分は時間外に実施
	26	プレゼンテーション・講評会	遅れている分は時間外に実施
	27	ブラッシュアップ	遅れている分は時間外に実施
	28	ブラッシュアップ	遅れている分は時間外に実施
	29	ブラッシュアップ	遅れている分は時間外に実施
	30	作品完成・提出	

評価方法

（1）設計内容・プレゼンテーション　(2)課題の提出　以上の内容を総合的に判断し　R評価（可、不可）で判断する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
設計評価		◎				50%
プレゼンテーション力		◎				50%

履修上の注意

出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	BIM 専攻ＩＢ(選択)				
科目名(英)	Building Information Modeling ＩＢ				
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	道脇　力
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年				
授業概要	・モデル作成、平面、立面、断面の基本図作成のワークフローの演習。 ・設計課題を通してBIMの特性を理解する。				
授業形態	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○				材質、レンダリングの設定を行い、パースを作成することができる。
	○				レイアウトを使ってプレゼンテーションボードを作成することができる。
	○				自身で思い描いた形、空間をARCHUCADを使って表現できる。

テキスト・教材 参考図書: ARCHICAD 22 Magic Vol. 1及びVol. 2(グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	プレゼンテーションボード作成「データ提出」	前回の復習を行うこと
2	ツールの応用、特殊ツールの紹介、質疑応答	前回の復習を行うこと
3	課題2:作成モデルのリノベーション「コンセプト」	情報、資料収集を行うこと
4	課題2:作成モデルのリノベーション「エスキス①」	情報、資料収集を行うこと
5	課題2:作成モデルのリノベーション「エスキス②」	情報、資料収集を行うこと
6	課題2:作成モデルのリノベーション「モデリング①」	タイムスケジュールの確認を行うこと
7	課題2:作成モデルのリノベーション「モデリング②」	タイムスケジュールの確認を行うこと
8	課題2:作成モデルのリノベーション「プレゼン資料提出」	必要提出資料の確認を行うこと

評価方法

(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
発表・作品		◎				50%
課題提出		◎				50%

履修上の注意: 出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	数学ゼミⅠB(選択)				
科目名(英)					
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	吉田　麻美
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	建築工学科　・　建築CAD科　・　インテリアデザイン科　1年				
授業概要	建築の各学科において必要とされる、基礎的な数学スキルの復習と習熟を目指す				
授業形態	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				単項式と多項式の基本問題が解ける
○	○				文字式を利用した応用問題が解ける
○	○				連立方程式の基本問題が解ける
○	○				連立方程式の応用問題が解ける

テキスト・教材 参考図書

オリジナル演習プリント

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	【演習問題】 式の計算　単項式と多項式	解答出来なかった問題は必ず復習・解答の上再提出すること。また、理解できなかった問題は質問事項を記入して担当教員に提出すること。
2	【演習問題】 文字式の利用　偶数と奇数の和	
3	【演習問題】 文字式の利用　等式の変形	
4	【演習問題】 文字式の利用　図形の関係式の変形	
5	【演習問題】 連立方程式　加減法と代入法を用いた解き方	
6	【演習問題】 連立方程式　いろいろな連立方程式の解き方	
7	【演習問題】 連立方程式　連立方程式の利用・身近な問題を解く	
8	【演習問題】 総合復習　まとめ	

評価方法

(1)受講態度・意欲　(2)課題の提出　以上の内容を総合的に判断し　R評価(可、不可)で判断する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
受講態度・意欲	○	○				30%
課題の提出	○	○				70%

履修上の注意

出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない